

本日ここに、平成28年5月横芝光町議会臨時会の開会にあたり、今後の町政運営について、私の所信を申し述べる機会をいただいたことは、誠に光栄であり、心より御礼申し上げます。

所信を申し上げる前に、4月14日から熊本県を中心に相次いで発生した地震により、家屋の倒壊や土砂崩れなど甚大な被害が発生しました。被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

私は、平成18年3月27日に横芝町と光町が合併し、初代横芝光町長として就任以来、2期8年「住民の視点で」を信条に「町民の幸せと町の発展」のため、全力で努力を重ねてまいりました。去る3月13日執行の町長選挙の結果につきましては、これまでの町政運営に議会をはじめ、多くの町民の皆様の温かいご理解とご協力、そしてご指導の賜物であると深く感謝申し上げます。また同時に、皆様の大きな期待と職責の重さに、あらためて身の引き締まる思いでございます。

さて、日本経済は、企業収益が高水準にあるものの、個人消費で停滞感がみられるなど、景気は足踏み状況であります。国は、一億総活躍社会の実現に向け、国内総生産600兆円、希望出生率1.8、介護離職ゼロといった目標を掲げ、関連施策を拡充しながら景気回復を見込んでいるものの、世界経済の減速による影響が懸念されています。

地方では、昨年を「地方創生元年」として、全国の自治体が人口減少の克服と成長力を確保するため「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定し、未来を見据えたあらたなまちづくりへの取り組みが始まっています。

こうした状況の中、横芝光町創生に向け、次の3つを大きな柱として、全力を傾注し取り組んでまいります。

一つ目は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進であります。

昨年策定したこの戦略では、5つの基本目標を掲げております。

第1の目標は、「産業を振興し安定した雇用を創出する」ことでもあります。様々な角度から新たな雇用を創出し、「産業振興」を大きな原動力とするもので、基幹産業である農業の強化や6次産業化の支援、そして特産品の販路開拓支援を行ってまいります。また、新たな企業の誘致を積極的に進めるとともに、千葉大学のCOCプラス（地〈知〉の拠点大学による地方創生事業）と連携し、若者が魅力を感じる産業や仕事を創り出したいと考えています。

第2の目標は、「横芝光町への新しい人の流れをつくる」ことでもあります。

移住や定住に関心のある方への情報提供を強化し、相談窓口や受入体制を充実させるため、(仮称)移住定住総合サポートセンターの設置や積極的に町のプロモーションを行うとともに、千葉大学や横芝敬愛高校と連携して若者の定着を図り、遊休公共用地を住宅地として若い世代の定住を促進してまいります。

第3の目標は、「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」ことでもあります。若者や子育て世代から選ばれる町となるため、結婚対策や子育て支援策を重点的に推進し、若者の出会いの場づくりや子育てに係る経済的支援と不妊治療費の助成事業をはじめとした妊娠から子育て期にわたる切れ目ない支援を充実させるとともに、教育振興と子育ての連携、ワークライフバランスの充実を図ってまいります。

第4の目標は、「時代に合った町をつくり広域連携を強化する」ことでもあります。

時代に合った町をつくるためには、交流や町民活動が活性化するネットワークを再構築する必要があると考えます。デマンドタクシーの利用時間の延長や成田市方面へのシャトルバスの日曜・祝日の試験運行など町内外の交通アクセスの充実と横芝駅前広場の活用を図るとともに、公共施設の統廃合とストックマネジメントの強化、さらに遊休施設のリノベーション(再利用)など、アクションプランを早期に策定し、地域の経営資源を活かしながら、新たな価値を生み出す取り組みを積極的に推進してまいります。

行政サービスでは、ICTを活用し、普及が進んでいるスマートフォン向けに、新たに町情報発信アプリサービスを開発することにより、町民の皆様が共有できる情報をリアルタイムに配信し、さまざまな行政サービスへの活用を図ってまいります。

また、安心・安全面においては、子育て世帯の災害時の不安を解消するため、妊婦の方や乳幼児が、避難先で必要とする災害備蓄品を整備するとともに、利用がなく放置されている空き地や空き家について、それらの把握と管理対策を強化してまいります。

第5の目標は、「地域の魅力を最大限に活用し町を活性化する」ことでもあります。

成田空港や首都圏からの交通の利便性と豊かな地域資源を活かした新たな魅力を創出し、観光と消費の核となる機能を整備するため、産直交流施設の建設、並びに横芝光インターチェンジ周辺の有効活用の検討を進める

とともに、特産品の開発や販路開拓支援事業を推進してまいります。

これら5つの目標を達成するため、関係機関との連携を図るとともに、町民の皆様と問題意識を共有し、各目標に位置付けられた46の事業の評価と検証を重ねながら展開することにより、まち・ひと・しごとの好循環の確立を目指してまいります。

二つ目は、持続可能な行財政基盤の構築であります。

合併後、財政調整基金を積み増しするなど、安定した行財政運営を行ってまいりましたが、町の財政状況は平成26年度の決算から見ますと、財政の硬直度を示す経常収支比率が88.8%となり、25年度と比較しますと3.6%増加し、義務的経費である扶助費や公債費は増加傾向にあります。また、本年度から地方交付税の合併算定替が段階的に引き下げられ平成32年度には終了するなど、今後大変厳しい財政運営が見込まれることから、将来にわたり持続可能な行財政基盤を築いてまいりたいと考えています。

歳出においては、より一層事務事業の改善に取り組み、効率的・効果的な事業執行はもとより、事業の成果や優先度を考え、選択と集中により、歳出の抑制を図ってまいります。歳入においては、財源の徹底した洗い出しを行うとともに、税収入の確保など、あらゆる歳入確保対策を検討してまいります。中でも、ふるさと納税を大きなチャンスととらえ、町の特産品の積極的な活用とPRを行うとともに、計画中の産直交流施設との連携も視野に入れ充実・拡大を図ってまいります。

三つ目は、空港周辺自治体の均衡ある発展であります。

成田空港は、現在第3滑走路の整備など空港の機能強化に向けた協議がおこなわれているところであります。

空港の発展は、周辺地域の産業振興や雇用拡大に繋がる大変重要なものと考えています。一方、当町は航空機の飛行直下に位置し、機能強化に伴う騒音地域の拡大や発着回数の増加による騒音の増加など生活環境への影響が大きな課題となることから、更なる騒音対策をはじめ成田空港周辺自治体の均衡ある発展と地域振興を図るため、国・県・空港会社と、より一層連携を強化してまいります。

また、本年は横芝光町が誕生して10周年となる記念すべき年です。

10月15日には、町発展のためご尽力いただいた皆様をお迎えし、町誕生10周年記念式典を予定しております。この10周年を町民の皆様と

ともにお祝いすることにより、わが町創生に向けた新たなスタートとして、初心を忘れることなく、町民の皆様と心ひとつに、安心・安全で魅力あふれるまちづくりを進めてまいりたいと考えています。

以上、私の所信の一端を述べさせていただきましたが、具体的な施策につきましては、町民の代表であります議会の皆様と十分協議を重ねながら進めてまいりますので、ご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。